

延岡市わが家の防災ハンドブック（案）に関する意見募集一覧

※本一覧においては『命を守るポイント版』を『概要版』と表記する

区分	意見の概要	本市の考え方・対応
本編	<p>延岡市は南海トラフ地震で甚大な被害が予測されているので、津波・地震はフォントを大きくしてはどうか。</p>	<p>本ハンドブックは、内閣府中央防災会議や中央教育審議会をはじめ、国・外郭団体・地方自治体の多数の委員会、審議会に携わっておられ、本市の防災アドバイザーである東京大学大学院情報学環の片田敏孝特任教授に監修していただきながら、『これまで防災への関心があまり高くなかった人も含めて、延岡市の皆さま全員に向けた、さまざまな自然災害に関する意識啓発』を行える物を、制作後の普及啓発も見据えながら、作成しております。</p> <p>いただきました御意見の通り、本市では南海トラフ地震による甚大な被害が予測されており、地震津波への備えも大変重要です。一方で、これまで台風などによる洪水による被害も受けており、近年、洪水による災害も激甚化しております。</p> <p>本市は九州でも2番目に広い面積を有しており、南海トラフ地震に限らず様々な自然災害のリスクがあることから、本市で考え得るすべての災害を一律のトーンとしてまとめ、各家庭（個人）においてリスクの高い災害を認識していただく計画作成のページを設けております。</p>

区分	意見の概要	本市の考え方・対応
本編	<p>P2 子どもさんへのメッセージとして、「災害時に自分で判断できるようにしましょう。友達や自分より小さな子、お年寄りに声をかけながら避難しましょう。」を追加してはどうか（見本：釜石市中学校）</p>	<p>本市でハンドブックを作成するにあたって、防災関係機関のほか、公募による市民の皆様にご参加いただき、防災ハンドブック作成検討委員会を設置いたしました。本検討委員会では、将来の延岡をけん引する子どもたちへの学校防災教育の普及定着を考える育み部会、延岡市内の要配慮者への災害時の避難支援を考える福祉部会、延岡市の地域ごとの災害リスク・防災の周知を考える地域部会を設置し、協議を重ねてまいりました。</p> <p>ご意見いただきました内容は、作成検討委員会分科会の中で、各部会から市民の皆様へ、「自らの行動（避難すること）が必要であること」などを多くの皆さまへメッセージとして発信することとなり掲載しているものです。</p> <p>このようなことから、本市としましては、分科会からのメッセージを尊重してそのまま掲載することに御理解いただければと存じます。</p> <p>また、いただきましたご意見につきましては、共助としても重要であることから、子どもさんのみへのメッセージではありませんが、P32 ページに助け合いについて記載しております。</p> <p>今後、子どもを対象とした防災講話や防災教育行うにあたりましては、いただきましたご意見を参考に、学校や地域とともに、防災が文化として根付いていくような取り組みとなるよう努めてまいります。</p>

区分	意見の概要	本市の考え方・対応
本編	<p>P5 自分を知るコーナーに「災害ごとに、避難するタイミングが異なります。危険の目安を決めて、避難行動に移す『避難スイッチ』をonにして行動してください。」と追加してはどうか。</p>	<p>ご提案いただきました「避難スイッチ」については、近年の防災研究で使われている言葉で、防災に関心のある方など、言葉(概念)の意味をしっかりと共有できている場合には、端的で効果的な言葉であると感じております。</p> <p>今回、本ハンドブックを作成するにあたりましては、『これまで防災への関心があまり高くなかった人も含めて、延岡市の皆さま全員に向けた、さまざまな自然災害に関する意識啓発』を行えるものを目指し作成しております。</p> <p>このようなことから、本市の防災アドバイザーである東京大学大学院情報学環の片田敏孝特任教授に監修していただきながら、このハンドブックをご覧になる際に、防災用語が耳慣れない方など、より多くの市民の皆さまにご理解いただくためにも、例えば、本編 P39 のタイムライン作成欄や概要版において「避難行動を始めるタイミング」などの一般に使われている言葉を使用した表現としております。</p> <p>いただきましたご意見のように、働きかけの方法の一つとして、地域共通の言葉の活用もあると考えますので、今後、本ハンドブックを活用した防災講話などを通して、地域とともに、より主体的な避難となるような取り組みを推進してまいります。</p>
本編	<p>市内を流れる河川の集水面積は上流域のほうが広いので、P6 中段の円中の「市に降った雨の…」は、「上流域に降った雨の…」の表現でもよいのではないか。</p>	<p>いただきました御意見をもとに、表現を修正いたします。</p>

区分	意見の概要	本市の考え方・対応
本編	<p>P7 調べてみようのコーナーが宮崎県ホームページの QR コードなので、直接浸水想定区域に行けるようなコードにする。 ※市民はホームページ内を検索しない。</p>	<p>いただきましたご意見は、本ハンドブックを作成するために設置した検討委員会でも同様ご意見があり、検討いたしました。</p> <p>直接当該ページが表示されるような QR コードとすべきところではありますが、QR コードはホームページの URL をもとに作成しております。例えば、当該ページの修正が行われ URL が変更となった場合、簡便に検索するために設定した QR コードが全く機能しなくなる事態が発生いたします。</p> <p>このようなことから、各ホームページのトップページが表示されるようにし、トップページの検索機能に入力するキーワードを表示し、どのように検索を行えば当該ページが表示されるかを、記載することといたしました。</p>
本編	<p>全ページで QR コードを表示しているが、そのページが直接表示されるようにしてほしい。宮崎県ホームページでは、その後が検索できない。</p>	<p>いただきましたご意見の通り、ホームページの検索が不得手な方もいらっしゃると思いますので、今後、防災講話などにおいて、参加された方にお持ちのスマートフォンなどを一緒に使用していただきながら、実際に QR コードを読み込んでいただき、検索するなど、掲載した情報を主体的に使用していただけるような取り組みを行ってまいりたいと考えております。</p>

区分	意見の概要	本市の考え方・対応
本編	P7 宮崎県ホームページには浸水想定時間の掲載がある。浸水想定時間は避難時間や期間、自宅の待機時間に当たり、食糧備蓄の日数等の参考になると思うが、浸水想定時間に関する記載は行わないのか。	<p>本ハンドブックは、本市の防災アドバイザーである東京大学大学院情報学環の片田敏孝特任教授に監修していただきながら、『これまで防災への関心があまり高くなかった人も含めて、延岡市の皆さま全員に向け、さまざまな自然災害に関する意識啓発』を行えるものを目指し、作成しております。</p> <p>本ハンドブックは「基本的な内容を掲載している」という性質及び掲載できる容量にも限りがあることから、いただきましたご意見にあります「浸水想定時間」は「浸水の続く時間」という表現にし、「浸水想定時間」がきちんと説明されているホームページが表示される URL 等を掲載することといたしました。</p> <p>しかしながら、いただきましたご意見の通り、防災・減災において必要な情報であることから、今後地域や学校で行う予定の防災講話や防災教育において丁寧に説明してまいります。</p>
本編	P7「河川が氾濫していなくても、市内への集中豪雨のような大雨が降ると…」は、「河川が氾濫していなくても、市内に局地的な大雨が降ると…」がわかりやすいのではないか。	<p>いただきましたご意見をもとに、検討し反映いたします。</p>
本編	P8 及び P22 乗車中の対応をどのようにするのか、車は路肩に寄せて、キーはつけたままドアロックはしないなどの対応策を書いてほしい。	<p>本ハンドブックは、本市の防災アドバイザーである東京大学大学院情報学環の片田敏孝特任教授に監修していただきながら、これまで防災への関心があまり高くなかった人も含めて、『災害ごとの知識、備え等の基本的な内容』で構成し、避難に関しては、まずは、基本となる「避難は徒歩を原則としていること」を啓発するための内容としております。</p> <p>しかしながら、当市も車利用者も多いため、いただきましたご意見をもとに、乗車中に被災した場合について記載いたします。</p> <p>加えまして、いただいたご意見につきましては、避難の原則を啓発しつつ、防災講話や防災教育において、乗車時に被災した場合など、突発時の対応の普及啓発に努めてまいりたいと考えております。</p>

区分	意見の概要	本市の考え方・対応
本編	P10 土砂災害に奈良県の例（河川閉鎖による自然湖が決壊した場合の想定）を追加してはどうか。	<p>本ハンドブックは、本市の防災アドバイザーである東京大学大学院情報学環の片田敏孝特任教授に監修していただきながら、これまで防災への関心があまり高くなかった人も含めて、『災害ごとの知識、備え等の基本的な内容』で構成しており、まずは、土砂災害への基本的な防災・減災について啓発するための内容として作成しております。加えまして、市民の皆さまに我が事として感じていただくため、市内の被災状況を掲載しております。</p> <p>しかしながら、河道閉塞・天然ダムが決壊した場合には、甚大な被害になる恐れがあるため、その点の周知も重要と考えます。</p> <p>いただいたご意見につきましては、土砂災害に関する基本的な事項を啓発しつつ、防災講話や防災教育において、事例として紹介するなど、普及啓発に努めてまいりたいと考えております。</p>
本編	P10 横須賀市の例（住宅地のがけ崩れ）を追加してはどうか。	<p>いただきましたご意見につきましては、共助の重要性に鑑み、備える編のP32「地域のちから」に共助に関する事項をまとめて記載をしております。</p> <p>このようなことから、いただきましたご意見をもとに、P13をご覧くださいの際にP32ページもご覧いただけるよう、地域のちからの掲載ページを記載いたしました。</p> <p>今後、地域と一緒に、具体的な取り組みや地区防災計画の作成などを行ってまいりたいと考えております。</p>
本編	P13 地域で避難の目安や地域の避難スイッチを決めるなど、ルールを決めておくことを追加してはどうか。	<p>いただきましたご意見につきましては、共助の重要性に鑑み、備える編のP32「地域のちから」に共助に関する事項をまとめて記載をしております。</p> <p>このようなことから、いただきましたご意見をもとに、P13をご覧くださいの際にP32ページもご覧いただけるよう、地域のちからの掲載ページを記載いたしました。</p> <p>今後、地域と一緒に、具体的な取り組みや地区防災計画の作成などを行ってまいりたいと考えております。</p>
本編	P14 竜巻の実績（台風の時が大きい竜巻が起る地形が延岡市）の例を記載したほうが良い。	<p>当市では、平成18年9月、令和元年9月に竜巻災害によって被害が発生しました。それらは市民の皆様の記憶にもまだ新しいことと思います。</p> <p>いただきましたご意見を宮崎地方气象台に確認したところ、竜巻等の突風は全国各地で発生しており、宮崎県内では本市以外でも発生しています。また、地形の影響も不明であることから、延岡市での竜巻発生においては、『台風が延岡市に接近している場合などに発生することがある』などの表現が妥当であるとの回答を得ました。</p>

区分	意見の概要	本市の考え方・対応
		<p>また、気象庁のホームページの台風に伴う風の特徴 (https://www.jma.go.jp/jma/kishou/kuon/typhoon/2-1.html) からも、台風が接近時に、沖縄、九州、関東から四国の太平洋側などでは竜巻が発生することがあるようです。</p> <p>このようなことから、いただきましたご意見のうち、実績につきましては、項目「竜巻を知る（P14）」に追加いたします。</p> <p>修正前： 記載なし 修正後： 「延岡市では近年に2度、平成18年9月と令和元年9月に竜巻により大きな被害が発生しました。台風の接近など、大気が不安定な場合には、竜巻が発生することがあります。」</p>
本編	P15 高潮の危険性は沿岸部以外に潮位関係している河川のエリアに注意が必要。	<p>ご意見いただいた内容を踏まえまして、項目「高潮から命を守る（P15）」について、以下のような表現を検討します。</p> <p>修正前： 「海岸沿いには近づかないようにしましょう。」 修正後： 「海岸沿いや河川（下流部）沿岸には近づかないようにしましょう。」</p>
本編	P18 枕元の懐中電灯、好ましくはヘッドライト食器棚からの陶器ガラスの飛び出し防止フックかマグネット	<p>御意見いただいた内容を踏まえまして、懐中電灯に（ヘッドライト含む）、飛散防止フィルムに飛び出し防止道具を追加するなどを検討いたします。</p>
本編	P21 津波の引き潮の怖さ 波高の最大と最小の差が大きいほど流速が早くなる第二波の被害が大きいのは、第一波で破壊した地面の抵抗がなくなるので、同程度の威力でも到達地点が高くなる。	<p>津波に関するメカニズムにつきましては、地形や地震発生形態によって被害様相も異なります。</p> <p>今回、本市の防災アドバイザーである東京大学大学院情報学環の片田敏孝特任教授に監修していただきながら、『これまで防災への関心があまり高くなかった人も含めて、延岡市の皆さま全員に向けた、さまざまな自然災害に関する意識啓発』を目指し、作成しております。</p> <p>このようなことから、このハンドブックをご覧になる際に、防災用語が耳慣れない方など、より多くの市民の皆さまに誤解なくご理解いただくための表現にするとともに、津波からの避難の基本</p>

区分	意見の概要	本市の考え方・対応
		<p>である「津波に関する警報の発表や、警報の発表がなくてもこれまでに感じたことのない揺れを感じたときは、いち早く逃げること」「南海トラフ地震では、本市において津波による被害が想定されていること」を啓発するための内容としております。</p> <p>このようなことから、P23 イラストにおいて「小さい津波でも大きな破壊力」「第1波が最大とは限らない」「津波は繰り返してやってくる」という表現で津波の特性を記載しております。</p> <p>いただきましたご意見につきましては、今後する津波ハザードマップの更新の際や、防災講話を行う際など詳細に説明できる場における説明事項の留意点として参考とさせていただきます。</p>
本編	<p>個人の避難スイッチ、近所の避難スイッチ、地域の避難スイッチの考え方を反映してほしい。災害別で監視事項が異なる。河川水位、暴風圏からの距離、谷水の水量など。</p>	<p>今回、本ハンドブックを作成するにあたりましては、本市の防災アドバイザーである東京大学大学院情報学環の片田敏孝特任教授に監修していただきながら、『これまで防災への関心があまり高くなかった人も含めて、延岡市の皆さま全員に向けた、さまざまな自然災害に関する意識啓発』を目指し、作成しております。</p> <p>『自ら調べ』・『自ら考える』ということを市民の皆様に取り組んでいただきたいという思いから、それぞれの災害別に、「積極的に情報収集」、「降水量を自分で量る」などの記載をしております。</p> <p>また、P5に自分を知る、P32に地域のちから、として、避難のタイミングの検討を啓発する記載を行っております。</p> <p>また、本編P26「情報の種類と受け取りかた」の「災害時の情報」及び概要版のタイムラインに警戒レベルや防災情報について記載するとともに、概要版に災害ごとに注意すべき防災情報等の例示として「〇〇情報に注意」と記載しておりますので、まずは、そのような記述で作成したいと考えております。</p> <p>そのうえで、いただきましたご意見につきましては、今後、防災講話や防災訓練などを通して、地域とともに、その地域にあった避難のタイミングの検討などを行っていきたいと考えておりますので、その参考とさせていただきます。</p>

区分	意見の概要	本市の考え方・対応
概要版	裏面の家族の避難計画の上段に「いつでも確認できるところに貼りましょう」といった文言をつけてはどうか	<p>概要版は、いつでも情報を確認したり、いざという時に情報を把握したりできるように作成しております。</p> <p>そのためには、いただきましたご意見の通り貼る・掲示するという使い方のほか、折りたたんで防災セットのなかにも入れていただくなど、様々な自由な使い方があると考えております。</p> <p>このようなことから、いただきましたご意見を踏まえながら、「見えるところに貼る」など、活用方法について記載することといたしました。</p> <p>今後は、地域で防災を検討するうえで、地域とともに活用のルールを検討したり、防災講話などにおきまして個人や家族のより有効な活用方法を検討したり、いただきましたご意見を参考に活用方法ご提案していきます。</p>
概要版	裏面の右側中段の『避難後の対応』箇所に表面の右側上段にあるイラストを添付できないか	<p>いただきましたご意見と、全体の情報量のバランスなどを勘案しながら、再度、レイアウトについて検討させていただきます。</p>
概要版	裏面の右側上段の『家族の避難計画』背景を「赤・黒」などのように視覚的に訴えるものにしてはどうか	<p>色合いを工夫して視覚的に訴えることも場合によっては有効であると考えております。</p> <p>いただきましたご意見をもとに、より重要と考える『自ら調べ』・『自ら考える』内容である裏面の鉛筆マークを、緑色から赤色に変更するとともに、「家族の避難計画」をより目立つようにいたしました。</p>